平成29年度　第 6 回教育委員会定例会

議決事項

件　　名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第27号 　平成 29 年度垂水市一般会計補正予算（第 3 号）案についての市長への意見申出について	平成 29 年度垂水市一般会計補正予算（第 3 号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	

平成29年度　第 6 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出　　席　　者	
平成29年９月11日（月） 午後１時５５分 ↓ 午後３時１７分 第２研修室	教　育　長　坂 元　裕 人 教育委員　野 村　繼 治 教育委員　田 原　正 人 教育委員　中 谷　いつみ 教育委員　葛 迫　幸 平	教育総務課長　池 松　　烈 学校教育課長　下 江 嘉 誉 社会教育課長　野 嶋 正 人

会　議　要　旨

１　開　会

定刻、定足数に達しており、平成29年度第６回教育委員会定例会を開会した。

２　平成29年度第５回定例会会議録の承認

承認

３　議　事

報告第 27 号　平成 29 年度垂水市一般会計補正予算（第３号）案についての市長への意見申出について

４　その他

なし

５　委員並びに教育長及び課長報告

６　閉　会

議事内容等

３　議　事	報告第 27 号 平成 29 年度垂水市一般会計補正予算（第３号）案についての市長への意見申出について
教育総務課長	平成 29 年度垂水市一般会計補正予算（第３号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告した。
野村委員	機械警備は、市内の学校全てに完備されたか。
教育総務課長	４月中に整備は終わっている。
野村委員	通信料と言われたが、どんなシステムになっているか。
教育総務課長	電話回線でつながれている。本市は、鹿児島総合警備保障だが、センサーなどが作動して、そこから電話回線で通信室にいって、垂水市に常駐されている担当の方に、何処何処に出動しなさいと指示が出る。
野村委員	たとえば、垂水小で発信されるとどうなるか。
教育総務課長	通信室から常駐の担当の方に、「何処何処に行きなさい。」と指示が出て、そこに向かわれる。
野村委員	市内は１番近いところは何処か。
教育総務課長	担当の方はこの近辺にお住まいですので、早く行っていただける。
田原委員	機械警備が設置されたのであれば、退庁時間など改善はされないか。
教育総務課長	事務局の方に毎月報告書がくるが、何処の小学校は、何時に開錠して、何時に施錠したと記載されている。どこも教頭先生がその管理に当たっておられるようだ。機械警備の作動等に関しては、どの学校も共通理解として認識いただいている。
田原委員	芸術文化振興費のことだが、瀬戸口藤吉翁、和田英作画伯の顕彰碑を移転されると聞いていたが、場所は文化会館でいいのか。
社会教育課長	文化会館を考えている。
野村委員	まだ青写真はできていないのか。設置場所とかデザインとか。
社会教育課長	表の方には、顔写真の陶板が、裏面には、これまでの瀬戸口藤吉翁コンクールの優勝グランプリ団体名と自衛隊の今まで来ていただいて演奏をしてくださったところ、和田英作画伯のモニュメントは、表面は同じく顔写真と功績、裏面には、和田英作、香苗記念展の入賞者を刻んでいけば、ず

	っと記念となっていくのかなと思う。そういう顕彰事業の紹介も兼ねている。
葛迫委員	それは、毎年毎年か。
社会教育課長	できる方向でしたい。今穴を空けるのは、細かい砂をびしっと吹き付けて文字を書いていく。それが可能だという話があったので、そこと話をしていく。それができないときは、空欄にして後で処理ができるようにしていく。できたらずっと記念に残っていけばいいと考えている。
葛迫委員	ガイドブックはどんなものか。
社会教育課長	瀬戸口藤吉翁と和田英作画伯のガイドブックは社会教育課で作っていたが、古くなって、内容もここは違うのではと指摘を受けていて、いつか機会があればと。モニュメントや顕彰碑もですが、来年は瀬戸口藤吉翁生誕150周年、市制施行60周年でもありいい機会だと捉えて、Ａ４版で2，000部新しく、リニューアルで作成したいと思っている。
４　その他	な　し
５　委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員、教育長及び各課長の報告に入る。
野村委員	１．「市内小中学校管理職研修会について」 ８月19日（土）市内小中学校管理職研修会に参加した。本市柊原出身である前鹿児島市教育長の石踊政昭氏の講話があった。知り合いということで参加させていただいた。 石踊先生は、鹿児島市の教育長を退職されるまで、県市町村教育委員会連絡協議会の会長もされていて、その代表幹事会でも毎回お会いしていたが、いつも郷里垂水のことを気にかけていらっしゃるというそんな人柄だ。 さて、講話については、先生の教職時代あるいは行政職時代での豊富な経験を踏まえたものであった。講演レジュメには、教育管理職にとっての重要題目が①校長職②教頭職③今日的課題④その他と並んでいたが、教職での専門的な話題は別にして、特に私が興味を持ってお聞きしたのは、「今日的課題」の中での「小学校における英語の教科化」の話であった。先生は英語が専門であるので、イギリス留学時代の実際の日常会話の中での意志不通やたくさんのハプニングについて、例えば、テレビのニュースを理解できない。劇場で皆と一緒に笑えない。貝のように閉じこもってしまいがち。そのもどかしさ、歯痒さは、英語教師としての自信を喪失させかねないものだったと報告書の中に書いてあったが、その原因の最たるものの一つが、「Ｒ」と「Ｌ」の発音だということだ。日本語にはない発声という

	ことで、講演会場の皆で具体的な単語を使って発声練習を繰り返すなど、大変熱の入った、また、説得力のある内容だった。 　言語の学習については、御存知のとおり、大変な困難がたくさんある。学習を進める児童生徒にとってはもちろんだが、指導される先生方にとっても、特に小学校においては、その指導形態や基本的な英語力などの面で大きなサポートが必要になってくるのではと思われる。「小学校における英語の教科化」は開始まで後２年、すでにカウントダウンが始まっている。是非とも、わが垂水市が県下他の市町村の範となるような取組ができればと願っている。
田原委員	１．「九州地区公民館研究大会（大分大会）について」 　８月24日から25日に九州地区公民館研究大会（大分大会）に参加した。１日目が大分県の研究発表、２日目が講演であった。とても有意義な大会であった。 　研究発表は、佐伯市の東地区公民館の「こどもミュージカル」の取組についての発表であった。今年で４年目の取組で、団員を地域の小中学校から募集して26年度が33名であったが、年々希望者が増えて、29年度が80名に増えている。 　歌やダンスの指導は県から派遣の社教主事１名やプロの演出者２名で指導し、その他の仕事は60名を超える高校生や大学生を含む大人達のボランティアがそれを支えている。毎年１回の発表会では26年が780名、27年が1，300名、28年は2，015名の観客動員数になっている。また、この表現教育事業は、大人にも広がり、大人と子供達がコラボしたミュージカルへと発展しているという。研究発表は、映像によるものだけでなく、子供達のミュージカルの実演を30分ぐらい見せてもらったので、その感動の大きさも格別であった。 　地域づくりは、人づくりと言われるが、子供を核にした取組は、地域の大人を巻き込み、感動の渦が地域へと広がり、いろいろなグループをつないでいくのだということが分かった。ここで育った子供達は本当に幸せで、またいつか戻ってくるのではないだろうかと思った。最後に、なんでこんな素晴らしい取組ができるのであろうかと考えさせられた。 　２日目は、現在、実家の神社の宮司をしながら、大分の観光特使をし、得意の落語を武器に、年400回の講演（口演）をしている矢野大和さんの「笑って元気！豊かな人間関係を築く公民館活動」という講演で、お腹を抱えて笑った。 　「教員や役場職員は、退職後は公民館で地域貢献をしてくださいよ。そうでないとぼけますよ。なぜなら痴呆公務員ですから。」すぐ覚えました。
中谷委員	１．「寺子屋について」 　毎年恒例の寺子屋に今年も子供達が参加して賑やかに楽しく過ごせたことに感謝している。 　宿題、プール、キャンプ、バーベキュー、花火、すいか割り、小学校体育館での納涼大会等、学校の先生、地域の皆さん、保護者の皆さん、いっぱいの手を借りて事故も無く無事に終わることができた。 　そんな中で考えさせられる事もあり、どこまで子供達に手をさしのべる

	ことがよいのか、寺子屋を手伝ってくれる息子とも意見を言い合うこともあった。子供が困っている、だったらどうにかしないといけない。即、実行に移す、こんなふうにはいかないよなと考えながら、結局、そのあと解決したような次第だった。 ２．「主任児童委員の活動について」 　８月31日、民生委員の主任児童委員３人と家庭相談員の先生と合計４人で、小中学校訪問をさせていただいた。先生方に顔を覚えてもらい、学校と家庭の間に入りやすくしていただく手段を私達の仕事としてくださいとの願いをお伝えしてきた。お陰様で、学校から連絡がそれぞれにあり、時には、学校から呼び出しも何件かある現状だ。幼稚園、保育園の訪問も10月に計画中だ。 ３．「柊原小学校訪問について」 　本日、柊原小学校を突然訪問させていただいた。京都に住んでいる教育学部の学生が、都会に住んでいるので、「複式学級」がない。どうにか参観できないかと言うので、学校に無理を言ったら、快く引き受けてくださり、３時間目の授業の１、２年生のクラスの算数を見せていただいた。 　先生が、授業中児童に、「返事はするんだよ。」、「ちゃんとわからなければ、質問をしましょう。」と伝えた。１年生１人と２年生２人のクラスだが私はこの言葉を聞いたときに、この先生はすごい先生だと思った。この大事なことをきちんと子供達に伝えることは、学力向上につながっていくと納得した。 ４．「三遊亭円楽・林家三平落語会について」 　落語会があったときに、あのおもてなし隊の子供達がすごい働きをしていた。これは褒めてあげないといけないと思った。席のわからない高齢の方々のところに自分達から積極的に行って、「何処ですか。こちらです。気をつけてください。」と言っている。受付でも、「こんばんは。」と言って、その声が元気で明るくて、来場された高齢者の方も、「元気が出た。ありがとう。」と言ってくださって、あの働きはすごいと感心した。
葛迫委員	１．「燃ゆる感動かごしま国体垂水市実行委員会設立総会・第１回総会について」 　８月31日、燃ゆる感動かごしま国体垂水市実行委員会設立総会・第１回総会に参加した。かごしま国体に向けての垂水市の準備や概要、今後のスケジュールなどの説明があった。県民そして垂水市でも総参加で盛り上がって成功させようとする熱い気持ちが伝わってくるような総会だったのではと思った。 　太陽国体以来２回目の国体だが、昭和47年に開催された太陽国体では垂水市はウエイトリフティングが開催されたのだが、当時は「重量挙げ」競技のことで、市民全体が盛り上がっている感じだった。今回の国体にしても同じようにという声があると思うが、スポーツの多様化でみんながいろんなスポーツを楽しむ。そのことで、体力向上や健康増進、明るく健やかに生活を送ることができればと思う。そして、かごしま国体が教育や地域

	文化、地方活性化に繋がっていくことを期待したいと思う。 ２．「垂水中央中学校体育大会について」 　９月10日、今年も晴天の中で、垂水中央中体育大会が開催された。開会式では、立っているだけでも暑く思ったのだが、生徒達を見てみると、平然としている姿が大きく頼もしく見えた。 　また、この暑さの中での、短距離走や中距離走、全員リレーでの一生懸命に走っている姿、生徒達の心の奥底にある気持ちをぶっつけるような応援合戦の競技、そしてこの集中力は、この暑さを吹き飛ばしてくれそうだった。 　３年生は、これから大変な時期に入っていくが、この切り替え、そして、集中力を大事にしてほしいと思っている。
教育長	１．「三遊亭円楽・林家三平落語会について」 　８月30日の三遊亭円楽・林家三平落語会だが、やっぱり聴きながらプロだな、金を取るということはこういうことだなと思った。私も楽屋入りから見ていたが、普段着で入って来て、リラックスした様子だった。そこら辺りにいる人だなという感じだ。ところが、舞台に立つと、表情が違う。日本語の面白さを言葉巧みに伝えていかないといけない。話術だ。やっぱりプロだと思った。改めて、落語の面白さを感じたし、三平師匠もやるなと思った。三平師匠は差があるのかなと思っていたが、結構やる。笑点ネタが多かったが。最後の師匠から習ったというネタはさすがだ。でもそれを上回るのが円楽師匠。大したものだ。やはりプロだと思った。改めて落語は面白いと思った。それはやはり日本語の面白さだ。あれを見てくれた子供達が日本語は面白いなと思ってくれれば、よかった。やはり、本物に触れるということは大事だなと思った。 ２．「さわやかあいさつ運動について」 　現在、９月はさわやかあいさつ運動月間だ。とりわけ教育委員会の職員が中心になって、毎朝そこのセブンイレブンの交差点に立ってあいさつ運動をやってくれている。その中で私が非常に思うことがある。何を思うかというと、毎日残暑でまだ暑い。朝もいくらかさわやかになったとはいえ暑い。汗をびっしょりかきながら浜平かな、来る子がいる。かたや、車の中で涼しそうに来る子がいる。これを見たときに、はたしてどっちが幸せなのか、将来だ。小学校６年間、中学校３年間、合わせて９年間、歩いて学校に通うということはどういうことなのかと。歩いて帰る。私は５点くらい考えた。教育委員の方々がまだまだあるよというのがあれば教えてほしい。歩いて来るということの意義、意味を５点に集約した。第１点目が体力がつく、長ければ長いほど、２点目があいさつの習慣が自然と身につく、そのことによって、人を知る、あるいは、人を知ることによって自分を守ることになる。３点目は、町の様子などを知る。気づく目を持つようになる。「ここに店があったのになくなった。」長い間にはそういうのも出てくる。「あっ、ここは危ないぞ。」、「ここはよく交通事故があるな。」という危険予知とか回避能力がつく。４点目は、四季の変化を肌で感じることが非常に大事。これは、感性を磨くとか豊かな心を作り出す。５点目は、

	郷土垂水のよさを知る。郷土を愛する心を育んでいくというような５点くらいを考えた。また、双方に関連する部分もある。とするならば、私は、歩くという行為は、子供達にとっては、学びの場だったり、あるいは、成長の場だったり、あるいは、教育の場だったりすると思う。とするならば、中谷委員のおっしゃったことと一緒で、親の意識の問題、家庭の教育の問題、親の教育力と言っていいかもしれない。やっぱり、ちゃんと歩かせるということを習慣付けることは大事なことではないかというようなことを、先週も２回程立って思った。今週も立ったが、登校の様子を見ながらそういうことを非常に考えた。そういう中で、今年のあいさつ運動は、柊原小学校の木原颯甫君の「おはようと　にこにこのたね　まきましょう」だ。おそらくこれは垂水小学校の子供達のことという気がする。協和小学校の子供達は歩いて必ず来る、車での登校はないと聞いている。柊原小学校もそうだ。水之上小学校もそうだ。まずないと思う。もし、車での登下校が親の都合だとするなら、ちょっと違うのではないかと私の考えをまとめたものがある。後程また見ていただければいい。
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	８月 11 日から９月 11 日までの主な行事等について報告。 併せて、10 月 10 日までの予定についてお知らせした。
６　閉　会	